

# 全日本民医連

## 糖尿病シンポジウムin長野

発行 2025年10月号

全日本民医連

糖尿病シンポジウム

実行委員会 news Vol.2

作成

松本協立病院 中村・太田

### ごあいさつ

この度、第38回全日本民医連糖尿病シンポジウムを長野で開催させていただくこととなりました。テーマは「**Multi-problem に対応する底力～先端・在宅・格差社会～**」です。

糖尿病診療は目覚ましい進歩を遂げており、新規糖尿病治療薬が次々と上市され、治療のあり方は大きく変貌し続けています。血糖降下薬は10種類に増え、CGM（持続血糖測定器）の普及、インスリンポンプの改良、iPS細胞シートによる膵β細胞移植も始まり、糖尿病は「ケアする病気」から「治癒を目指す病気」へと進化しています。また、糖尿病協会から提案された病名変更「**糖尿病から世界共通語のダイアベティスへ**」も数年が経過し、糖尿病への偏見をなくすアドボカシー活動がより活発に展開されています。

一方で、少子高齢化に伴う急激な人口減少が進行し、高齢者人口は増加、特に一人暮らしの高齢者が年々増えています。このため、訪問診療や施設入所中の糖尿病患者への対応が課題となる場面が増えています。

さらに、急速に進行する社会経済格差が健康格差を広げ、出生率の低下、自殺率の高止まり、相対的貧困率の高さなどから「**生みづらく、生きづらい社会**」が浮き彫りになっています。全国で無低診（無料・低額診療）を展開する事業所は民医連に限らず増加の一途をたどっており、経済的理由で治療を中断せざるを得ない事例が世代を問わず多発し、手遅れによる死亡事例も後を絶ちません。近年では、学会等でも社会経済的問題を取り上げた報告やシンポジウムが散見されるようになっていきます。

このような情勢を鑑みると、全日本糖尿病シンポジウムの先生方が取り組まれた「40歳以下2型糖尿病の多施設調査」（糖尿病59(2):95~104, 2016）は、いかに先進的な取り組みであったか、その先見の明に改めて感銘を受ける次第です。現在、全日本民医連の各院所・事業所は度重なる医療制度改革の影響により、厳しい経営状況に直面しています。

その影響もあってか、2年ごとに開催される糖尿病シンポジウムの参加者数も減少傾向にあるようです。

### しかし、皆さん。

こんな時だからこそ、交流しませんか。

困難な経験を分かち合いませんか。

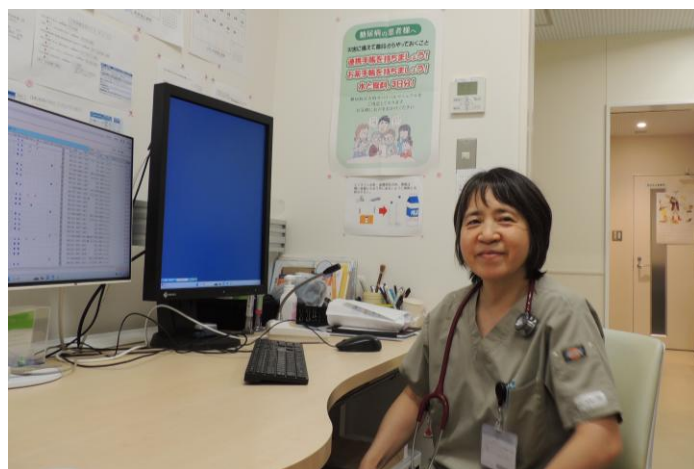
どうぞ松本にお越しください。

美しい山々と澄んだ空気で、

皆さんを心よりお迎えいたします。

### 第38回全日本民医連糖尿病シンポジウム

実行委員長 前田 実穂子



### 編集後記

日頃から糖尿病シンポジウムに関わる全ての方にご協力いただきありがとうございます。そして最後までお読みいただきましてありがとうございます。次回も開催に向けての情報を発信したいと思っています！

### お問い合わせ・事務局

第38回全日本民医連 糖尿病シンポジウムin長野

事務局 二木 文康

社会医療法人 中信勤労者医療協会 松本協立病院

〒390-8505 長野県松本市巾上 9-26

TEL：0263-35-5300（代表） FAX：0263-35-5338